

オミクロン株の特徴を踏まえた効果的な対策

阿南 磯部 今村 太田 大竹 岡部 小坂 押谷 尾身 釜萯 小林
高山 田中 舘田 中島 中山 古瀬 前田 武藤 脇田 和田

○本文書は、オミクロン株による感染が急速に拡大し、医療の負荷がかかり始めている地域を念頭に作成したものである。

I. 重症化率が低いとの指摘の中、なぜ早急に感染者数の抑制が必要なのか？

- ①早ければ、この2週間前後でピークが到来する可能性があり、そのピークは5波の時よりも高いことが想定される。
- ②各国のデータからもオミクロン株の感染拡大から遅れて重症者・死亡者が増加している(図1)。
- ③我が国でも、同様の傾向が見られ始めている。沖縄県や大阪府、東京都などでは入院者数、中等症以上の患者が増加している(図2-図3)。なお、一部の地域では、デルタ株による感染も残存している。
- ④アメリカなどではワクチン未接種者での重症化・死亡が顕著であるが、我が国では、高齢者の人口が多く、欧米に比べ高齢者のブースター接種率は圧倒的に低い。また、ワクチンの未接種の人も1-2割程度存在する。
- ⑤軽症者が多いと言えども、感染者数が膨大になれば、欠勤者や休園・休校が続出し、社会の機能不全につながることも危惧される。既に、医療・福祉の現場では、その傾向がみられている(図4)。
- ⑥重症者率が低くとも、感染者数が膨大になれば、一定程度の重症者が発生する。また、医療提供体制が拡充されたと言えども、感染が疑われる全ての人々が検査・診療のために医療機関を利用すれば、地域の医療提供体制のキャパシティを越えてしまう。実際に沖縄県では、救急患者を断らなくてはならない事象が既に生じており、沖縄県では医療の機能不全が生じつつある。
- ⑦これまでに見られた重症者・死亡者増加や医療逼迫というような情報による人々の感染リスクを避ける行動変容ではオミクロン株の急激な増加には間に合わない可能性が高い。

II. オミクロン株の特徴を踏まえた効果的な対策とは？

1. オミクロン株の特徴は？

○オミクロン株はデルタ株をはじめとしたこれまでの新型コロナウイルス感染症とは、異なる感染症と考えるべきである。

- ①潜伏期間が約3日(デルタ株では約5日)、世代時間の中央値が約2日(デルタ株では約5日)、デルタ株に比べ感染拡大のスピードが極めて速い。
- ②初めに、軽症者の数が急激に増加し、救急外来などを含め地域医療に負荷が生じ、その後、高齢者に伝播し、重症者数・入院者数も増加し、医療全体が逼迫し、さらに社会機能の維持も困難になることが懸念される。
- ③基礎疾患や肥満を有しない50歳未満の人の多くは感染しても症状は軽く、自宅療養で軽快している。

- ④オミクロン株の主たる感染伝播の場面は、全国的に見て、これまで同様、三密回避が守られていない大人数・大声で、換気の悪い場所でのパーティーや会食などであり、このような場面で多数のクラスターが発生している(図5)。
- ⑤家庭内での二次感染率が高く、高齢者や小児への感染が増加している。

2. 効果的な対策

○効果的な対策とは、これまでのような“強い対策”の踏襲ではなく、オミクロン株の感染リスクに応じた対策である。この効果的な対策においては、かつて実施した一律かつ広範な“人流抑制”という方法もあるが、感染対策を社会経済活動との両立が求められる現時点では、感染リスクの高い場面・場所に焦点を絞った接触機会の確実な低減のための“人数制限”が適していると考えられる。なお、感染状況等の実情も踏まえて、各都道府県知事の判断により、“人流抑制”を加味することもあり得る。感染拡大・医療逼迫が悪化した場合には、さらに“強い対策”が必要になる可能性もある。

○効果的な対策の目的は以下の3つである。

- ①今求められることは、医療逼迫や社会機能不全に陥らない程度に感染者数を抑制することである。
- ②また、感染の急激な拡大により多くの人が同時期に感染することで生じる医療や介護、教育をはじめとした社会機能への影響を最小化にすることである。
- ③さらに、高齢者や基礎疾患のある人の重症化リスクが確認されていることから、こうした人々への医療を確保しつつ、一般診療も同時に両立することで、死亡者数を最小化することである。

求められる具体的対策

(1) 国及び自治体に求められること

- 軽症者には効率的に、ハイリスク者にはきめ細かく、療養者支援や医療提供を実施して頂きたい。
- ワクチンの追加接種及び未接種者へのワクチン接種を促進して頂きたい。
- 社会機能維持のためにも、引き続き、企業におけるテレワークを推進して頂きたい。

(2) 感染者数抑制のための感染リスクに応じた対策

- オミクロン株においても感染リスクの高いことが判明している場面・場所は、三密回避が守られていない大人数・大声で、換気の悪い場所でのパーティーや会食などである。
- したがって、非日常的な活動について、感染リスクの高いことが判明している場面・場所(パーティーや会食等)に関しては、皆様におかれては、当面の間、避けて頂きたい。仮に、実施する場合には、地域の感染状況にあわせて、主催者は当日の抗原検査実施や人数の制限などを行うことを検討して頂きたい。
- 一方で、日常的な活動について、感染リスクの高いことが判明している場面・場所に関しては、例えば飲み会などを行うのであれば、検査をその度ごとに実施することは運用上困難である。そのため、静かな会話、いつも会う人といつもより厳しい少人数・短時間で行うよう、事業者や国民は主体的に工夫して頂きたい。
- クラシック等のコンサート、Jリーグ、プロ野球等では、これまでの経験より感染リス

クが低いことが判明していることから、これまで行ってきた席の間の距離の確保や静かな観戦など基本的な感染防止策を継続・徹底して頂きたい。その際、人数制限を緩和する場合には、参加者に検査を実施することが考えられる。

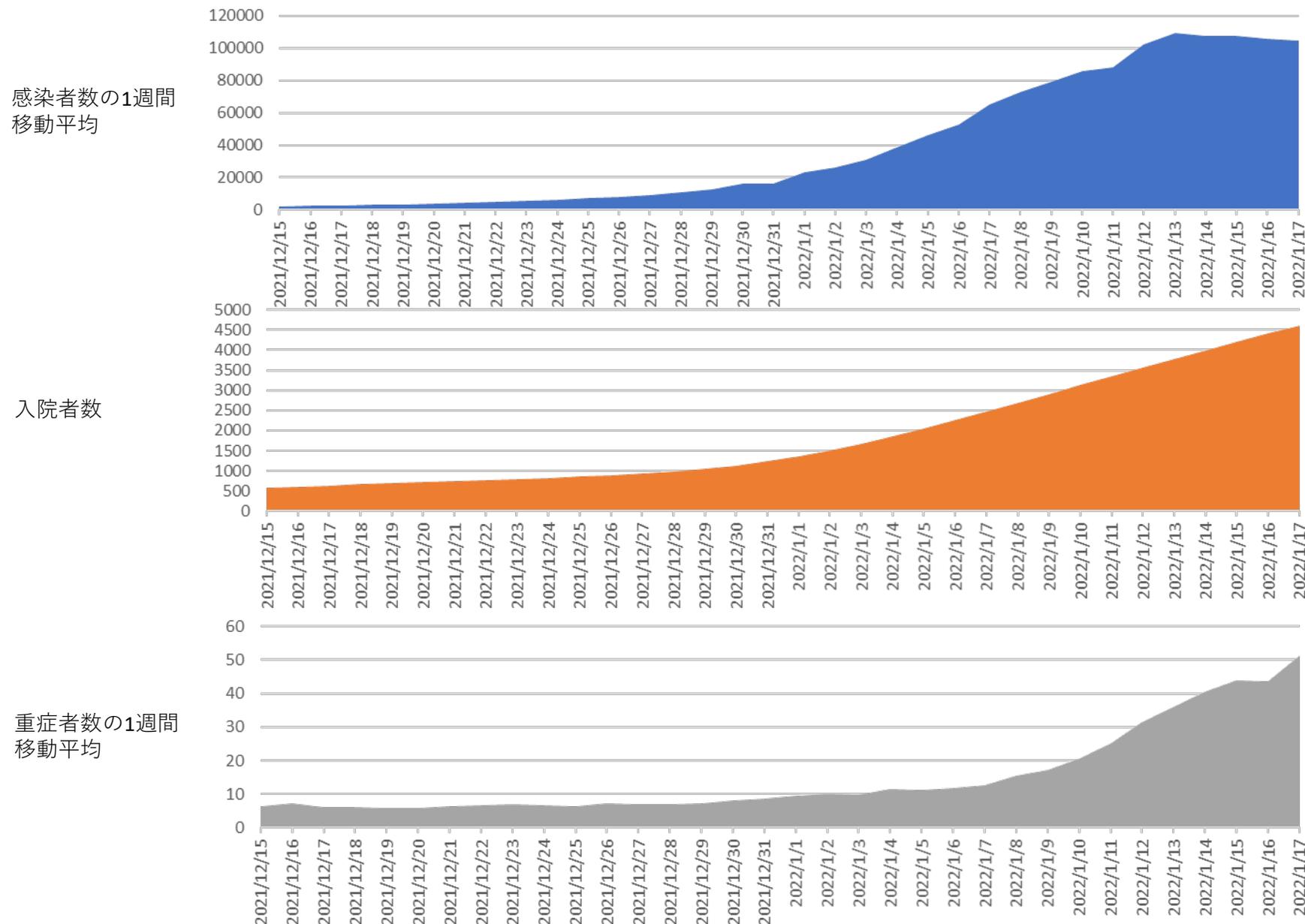
- 都道府県をまたぐ移動に関しては、移動先での上述のような感染リスクの高い行動は控えて頂きたい。
- 基礎疾患を有する高齢者や小児の感染を減らすために、家庭内に感染を持ち込まないよう、普段より、基本的な感染防止策を徹底して頂きたい。
- 高齢者施設等での高齢者への感染を防ぐために、従業員を対象に定期的に抗原検査を活用した対策の強化を図ることが考えられる。
- 年齢に関わらず、これまで行ってきた身の回りの三密回避や感染防止策について改めて点検した上で、換気・手洗いの徹底や不織布マスクの着用などについて、確実に実施して頂きたい。

(3) 医療提供体制の確保

- 高齢者や基礎疾患のある人の医療を確保する必要があり、さらに、新型コロナウイルス感染症以外に対する一般診療も同時に両立すべきである。
- このまま、感染が急拡大した場合には、外来医療の機能不全を防止するために、若年層で重症化リスクの低い人については、必ずしも医療機関を受診せず、自宅での療養を可能とすることもあり得ると考える。

オーストラリアでの感染者数・入院者数・死亡者数の推移

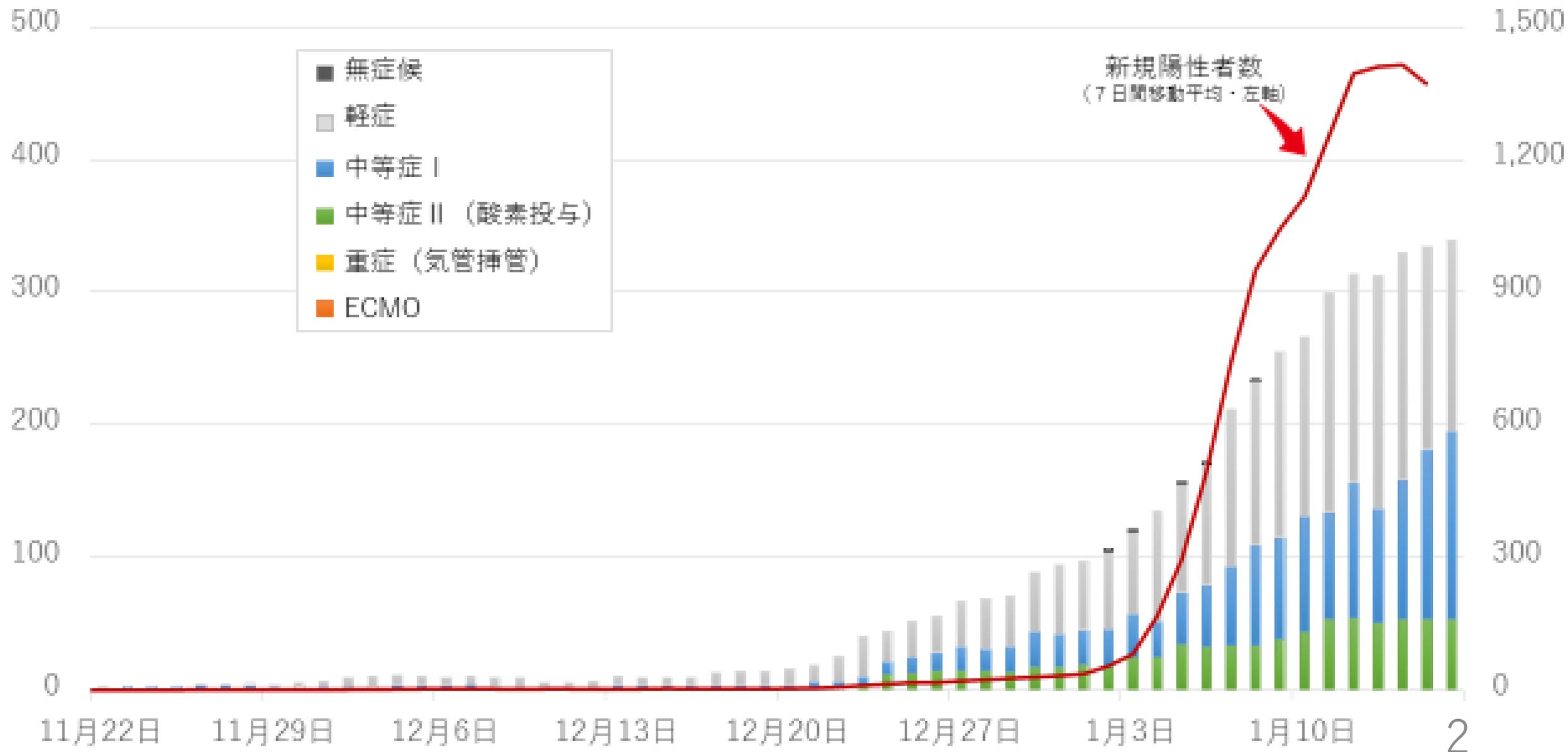
図1



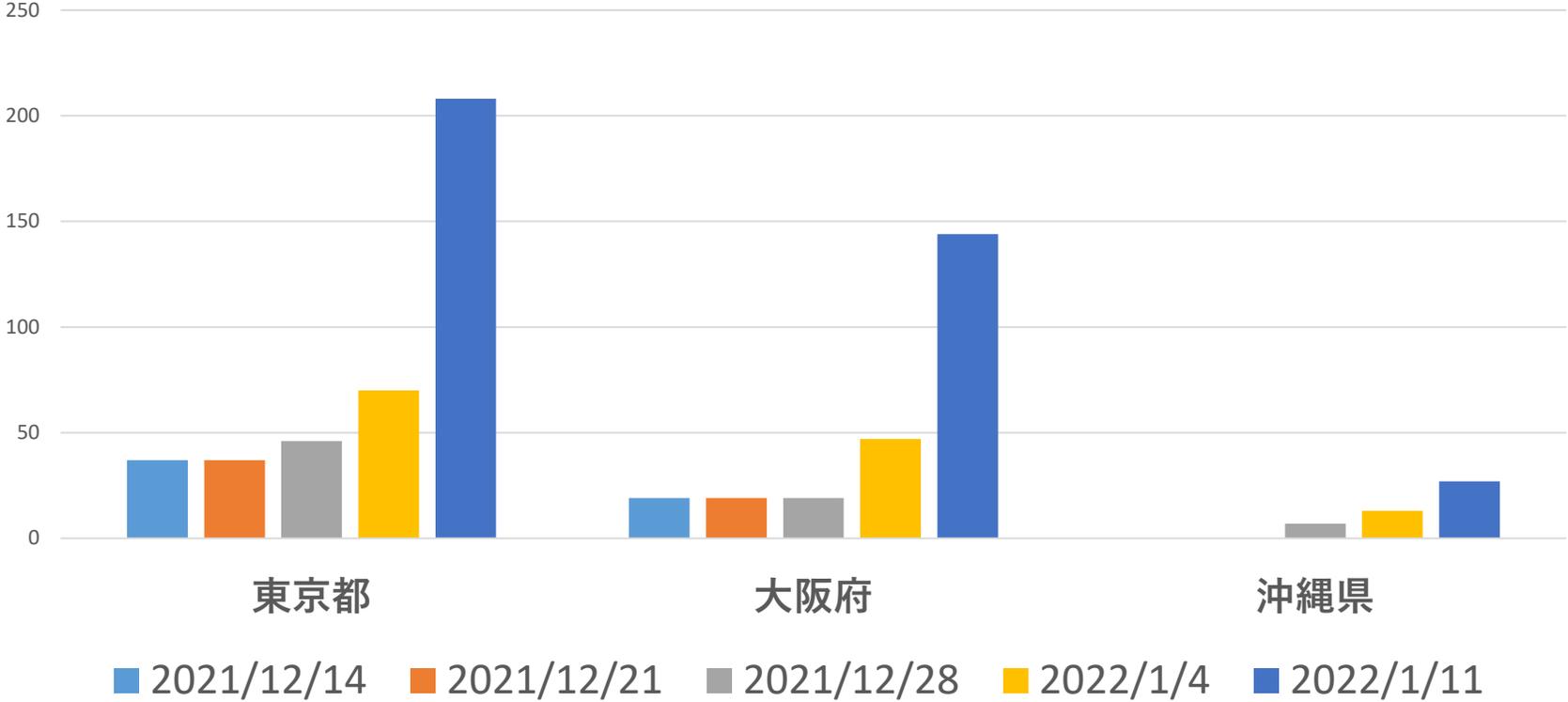
Data on COVID-19 (coronavirus) by Our World in Dataのデータより作図

新規陽性者数および重症度別入院患者数（沖縄県）

図2



国基準の重症者の推移



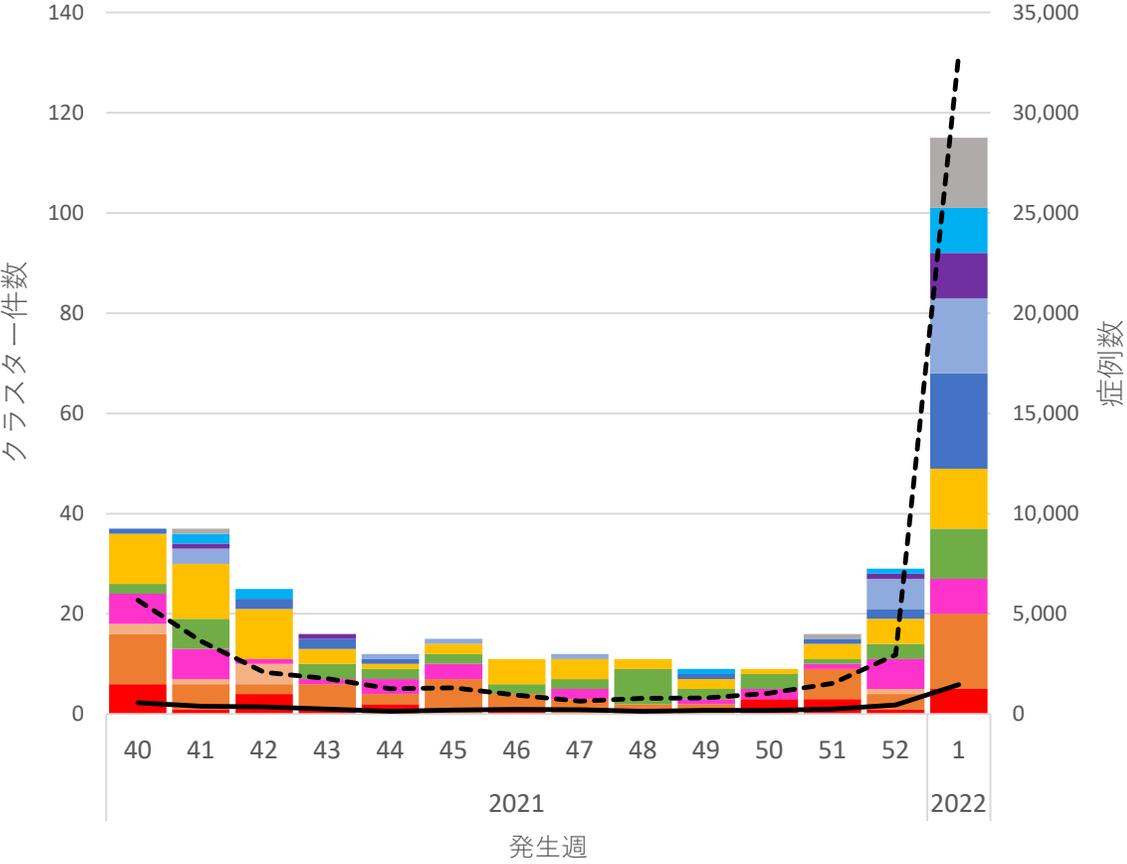
「都道府県の医療提供体制等の状況（医療提供体制等の負荷・感染の状況）について」のデータから作図

重点医療機関における医師、看護師の休職数

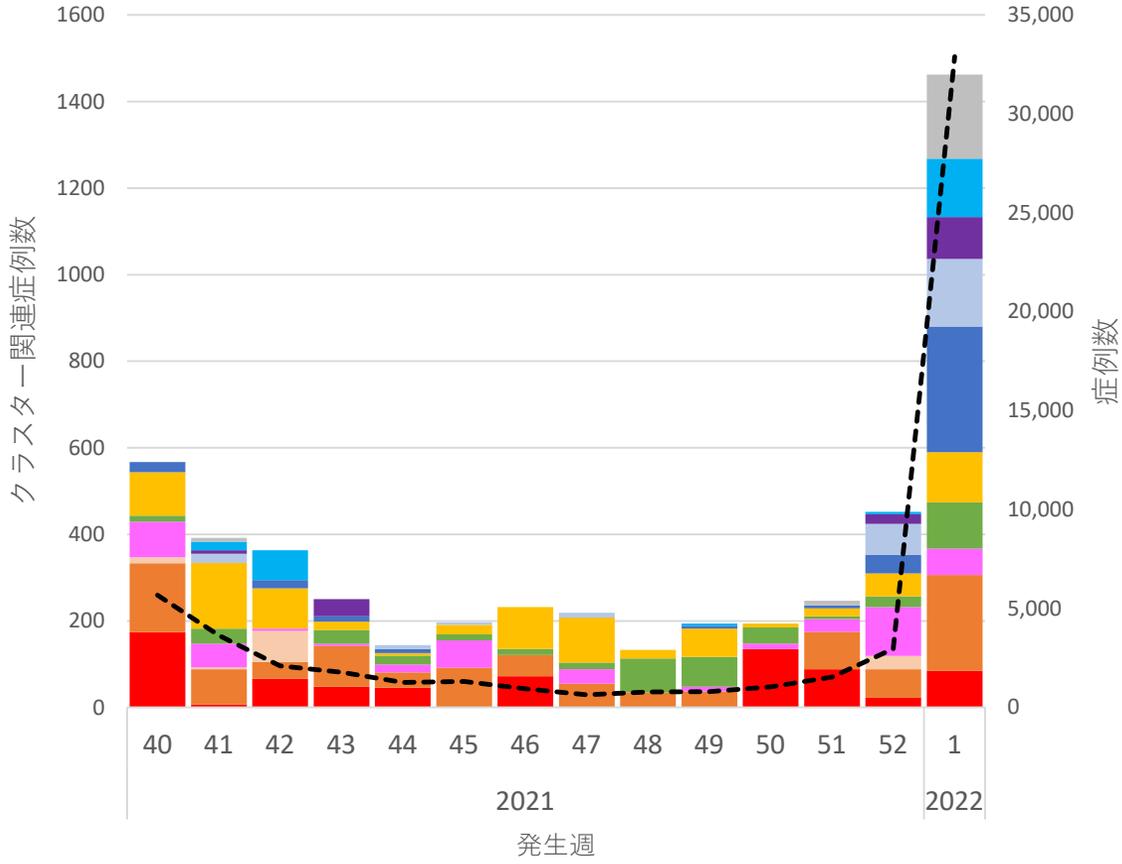


疫学週別クラスター件数、関連症例数（2021年第40週～2022年第1週）

クラスター件数



クラスター関連症例数



- 医療機関
- 高齢者福祉施設
- 障害者福祉施設
- 児童福祉施設（幼稚園含む）
- 学校・教育施設
- 職場
- 飲食店（居酒屋・バー含む）
- 会食
- 接待を伴う飲食店
- スポーツ関連
- その他
- 新規報告症例数
- クラスター関連症例数